

会 議 録

会議の名称	第2回白岡市立学校適正規模・適正配置審議会
開催日	令和7年9月12日(金)
開催時間	午後6時30分 から 午後8時 まで
開催場所	中央公民館 講堂
出席者(出席委員)の氏名・出席者数	明野 真久、神田 小百合、中口 智弘、細野 勇人、中村 則裕 小林 大輔、辻 文明、大山 美智子、水野 香奈、矢部 れい美 藤井 亮輔、加藤 政典、濱本 一、安原 輝彦、松崎 慶喜 出席者：15名
欠席者(欠席委員)の氏名・欠席者数	なし 欠席者：0名
説明員の職・氏名	魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一
事務局職員の職・氏名	教育長 横松 伸二 教育部長 長谷川 亘 教育総務課長 高澤 憲司 教育指導課主任指導主事 安達 季秋 魅力ある学校づくり推進室長 齊藤 健 魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一
その他会議出席者の職・氏名	教育総務課主幹 神田 晶子 ファシリティマネジメント推進課課長補佐 濱田 貴央 ファシリティマネジメント推進課主査 空谷 大地 株式会社ファインコラボレート研究所 土肥 千絵
傍聴者数	13人
会議次第	別添のとおり
配布資料等	アンケート速報結果概要版

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	1 開 会
教育長	2 あいさつ
事務局	3 議 題 それでは議題に入ります。ここからの進行につきましては、濱本会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。
濱本会長	議題に入る前に一言ごあいさつを申し上げます。
濱本会長	濱本会長あいさつ
濱本会長	それでは、暫時の間、議長の職を務めさせていただきます。委員の皆様には、限られた時間の中で会議を効果的に進めるため、有意義な議論へのご協力をお願いいたします。 また、本日ご出席いただいている株式会社ファインコロボレート研究所の方からも、必要に応じてご意見を伺うことがありますので、あらかじめご承知おきください。 なお、本日は傍聴の方が来られています。傍聴の方の入室を許可したいと思いますですが、よろしいでしょうか。
委員一同	異議なし。
濱本会長	ありがとうございます。それでは、ここで、傍聴の方の入室を許可しますので、よろしくお願いいたします。 ～傍聴人の入室～
濱本会長	それでは議題に入る前に、事務局から、「前回の審議会で委員の方々から出

	<p>された質問に対する回答」と「8月24日に実施された、魅力ある学校づくりシンポジウムの様子」について、参加できなかった委員の方もおられますので、簡単に報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>前回の審議会での質問に対する回答及びシンポジウムの様子について報告</p>
濱本会長	<p>事務局からの報告が終わりました。ただ今の報告について、ご意見やご質問等がございましたらお願いいたします。</p>
B委員	<p>シンポジウムのアンケート結果について、参加者から具体的にどのような意見が出されたのか教えてください。</p>
事務局	<p>いくつかご紹介させていただきます。まず、教育のあり方につきましては、「子どもが主体、中心なので、まず、どんな子どもを育てたいかを目標の頂点に持っていくことが必要だと思う。例えば、非認知能力を伸ばしていく、公平性を大切にする。」というご意見をいただきました。地域連携に関することにつきましては、「人口や財源など問題がある中ですが、だからこそ地域で一丸となって地域全体で子どもを育てていく姿勢や体制が大切だと感じました。」というご意見をいただきました。教員の働き方に関することにつきましては、「国の学校制度が根本的に変わっておらず、教員が校長をトップとした管理システムで多くの課題や仕事に対応させられ、過重労働となり、やりたい教育ができない、病んでしまう状態を改善しなければ理想の学校へ向かうことはできないと思います。教員の本音をしっかりと聞く必要があると感じます。」というご意見がございました。シンポジウムへの意見、今後の期待につきましては、「今回のようなシンポジウムをまた開催してほしい。」や「参加者が少なく思う。もっと効果的な広報をしていただきたい。」というご意見をいただきました。</p>
A委員	<p>シンポジウム当日に参加できない方などに向けて、YouTube等を活用し、シンポジウムを開催することを検討してみてもどうでしょうか。また、シンポジウムに参加した方の内訳を教えてください。例えば、保護者の方の割</p>

	<p>合が多いのであれば、地域の方と連携して宣伝するなどの対応ができると思います。</p>
事務局	<p>YouTube等の活用につきましては、今後検討していきたいと考えています。参加者の内訳につきましては、参加者44名の中で、お子様がいる方の人数は、20名いらっしゃいました。保護者の方はおそらく20名程度いらっしゃったと考えています。</p>
A委員	<p>参加者の内訳の把握は、次回のシンポジウムで対応をお願いします。</p>
濱本会長	<p>皆様、ありがとうございました。それでは、議題に入りたいと思います。はじめに、議題(1)「アンケートの速報結果の報告について」を議題といたします。</p> <p>事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>(1) アンケートの速報結果の報告について説明</p>
濱本会長	<p>事務局からの説明が終わりました。これより質疑に入ります。なお、質疑につきましては、次の議題である今後の学校づくり等に関する意見交換に多くの時間を確保したいことから、できる限り簡潔をお願いいたします。それでは、質疑はございますか。</p>
L委員	<p>ご説明いただいたアンケートの概要版については、今後どのように使っていくのか、どんな判断をして使われていくのかといったところを教えていただきたいと思います。</p> <p>確かにアンケートの結果は出ていますが、これを全てまとめた上で、事務局はどのような判断し、どういう傾向があると思うのか、また、アンケートに回答した方はどのようなことを考えているかについて、事務局はどのように認識するのか、そして今後どのように利用していくといった指針のようなものがあるのか、そのようなところをお聞きかせいただければと思います。よろしくお</p>

事務局	<p>願いたします。</p> <p>今回は単純集計結果のアンケートでございましたが、属性を掛け合わせたりしたクロス集計を行い、もっと詳しく分析をいたしまして、それを第3回審議会以降で予定している議論の論点の基礎資料として活用していきたいと思っています。どのように使っていくかというところの指針については、今のところ考えていません。</p>
事務局	<p>このアンケートは、もう少し細かく分析し、クロス集計等を行わなければわからないと思います。例えば、「これからの学校教育について」どうしたらいいのかということで、市民の方は、基礎学力や人間性を重視している雰囲気がある今回の結果からみえており、そういう傾向があると思いました。「学力を高くしてほしい」といった意見を考えたとき、基礎学力をしっかりとつけるためにはどういった学校がいいのかなど、そういう方向で考えていきたいと思っています。将来ビジョンを作るときは、そういうことを参考にしたいと考えています。また、今後は児童生徒が減る状況にあって、クラス数をある程度維持しなければいけないということになれば、どれぐらいの規模の小中学校を考えなければならないのか、給食はやはり自校給食のほうがいいのかなどを考えていきたいと思っています。</p> <p>さらに、複合化については、学校施設と併せて幼保施設やプールも検討しなければいけないと思います。プールは、一年中使えるといいという希望が多いので、もう青空ではなく室内プールを検討していくといったことを少しずつ考えながら、今後の将来ビジョンと具体的に来年度進めていく計画の内容の参考にしていきたいと思っています。非常にいいアンケートが取れたと思っています。</p>
A委員	<p>アンケートの概要版の14ページにプールのことについて書いてあります。今後の学校の適正規模・適正配置の議論を考えると、公共施設が古くなる中でプールについても議論の対象になると思うので基礎知識として教えてほしいことがあります。プールの教育が、どのように子どもたちの位置付けになっているのかです。例えば、プログラムで年間何回やりなさいということが、決まっ</p>

<p>濱本会長</p>	<p>ているのかどうなのか。着衣水泳を行っている学校もあるようなので、そういうことも含めて、基礎知識として教えていただければと思います。</p> <p>国が策定している学習指導要領があります。その中に、体育あるいは保健体育の中に各学年でプールは位置付けられています。学校によって、実数は若干変動しますが、内容としては実施しなくてはならないものです。例えばプールがない市町村の場合は、スイミングスクールで代わりに実施するところがあります。なので、基本的には学習指導要領に定められたものについては、しっかりと実施しなければいけないです。時間については、学校の裁量で年間指導計画を立て、概ね時間が決まっています。</p>
<p>G委員</p>	<p>基本的に小学校は全ての学校で行っています。授業実数については、今まさにお話しいただいたとおり、本校であれば7時間から9時間と設定していますが、天候もありますし、今年度のように大変暑いと温度と水温を合わせて危険指数になり、プールに入ってはいけなくなるといった状況が発生します。現実、少ない学校だと5時間くらいの学校もありますが、本校は、今年度は結構プールに入っていました。水泳授業は、暑さ対策の観点から、校長会において来年度は5月にプール清掃をして6月から入れるように準備をしようかという話題になっています。</p>
<p>濱本会長</p>	<p>補足です。プールの事故が多いです。全国的にプールの事故が多いのは、「飛び込み事故」、「排水溝に吸い込まれる」、「溺れてしまう」といった三重大事故ですが、そのようなことについて学校の先生方は、全部見ながら毎時間指導しています。そういう状況の中で保護者の意見としてはどう思われますか。</p>
<p>I委員</p>	<p>私の娘は、毎年水泳の授業は楽しみにしているようです。ここ数年は暑さで入れないなど、天気によって左右されることが多々あり、ある年は3回くらいしか使えなかったという感じでムラがあると思います。いつも6月、7月と入りますが、今は夏休みに学校に行ってプールに入ることもなくなってしまったので、回数が減ってしまっているのは残念です。現状のまま続けていくのは、学校は</p>

<p>濱本会長</p>	<p>大変だと思いますし、泳げるようになるとかそういう授業もできないと思います。1時間で泳げるように先生方も一生懸命指導してくださっていると思いますが、本当に1年で3回ぐらいしか入れないのはもったいないなと感じます。</p> <p>これから学習指導要領については、これだけプールに入れなくなってしまうとその内容も若干変わってくるかもしれません。これは国全体の問題だと思います。各学校の特色を生かして実施していくことになっていく中で白岡市としてどうするか、そんなことを考えなくてはいけないなと思います。ほかの校長先生はどうですか。プールの問題について、具体的に何か感じていることはあるか教えていただければと思います。</p>
<p>E委員</p>	<p>今年度は、暑さ指数（WBGT）を超えてしまう日がほとんどでした。プールの授業を楽しみにして登校してくる子どもたちを朝迎え入れながら、「今日は入れないんだよ」と言うのが心苦しいです。夏場の体育授業については、色々と検討する必要があると思います。</p>
<p>濱本会長</p>	<p>ありがとうございます。熱中症の関係があり、気温が高いと外で活動できないといったこともありますし、今後はそのような状況も踏まえて特色ある活動について私たちも考えていかなければならないと思います。</p> <p>私も以前、篠津中、菁莪中で部活動の顧問をしていましたが、昔は毎日のように活動していた記憶があります。今の子どもたちは環境面で制約を受けてしまっています。なので、私たちがいいアイデアを出して、子どもたちが楽しく、また充実した活動を実施できるよう支援していけたらと思います。</p>
<p>濱本会長</p>	<p>皆様、ありがとうございました。</p> <p>続きまして、議題（2）「市の現状と課題を踏まえた今後の学校づくり等に関する意見交換について」を議題といたします。</p> <p>それでは、アンケート結果の内容や白岡市の学校を取り巻く現状などを踏まえまして、子どもたちにとってより良い教育環境や白岡市にとってどのような学校が望ましいのかなどについて、皆さんと活発に意見交換ができればと思い</p>

M委員

ます。

私の学校は中学校と高校の両方を運営しています。ハード面である学校施設とソフト面である教職員の人事の両面で喫緊の課題を抱えています。

まずハード面についてお話しします。白岡市は小学校、中学校でそれなりの年数が経過した校舎が多数あるということを認識しています。私の学校で一番古い鉄筋の校舎では、築51年のものがあります。耐震補強は、東日本大震災の後に実施しましたので、すぐに崩壊することはないと思っていますが、築50年を過ぎた鉄筋の校舎はどんなことが問題になるか。先ほどのアンケート結果では、白岡市の教職員、保護者の方が一番懸念しているのは、災害発生時のことであり、それは当然心配だと思います。ですが、私は、校舎が倒壊するといったことは基本的にはないと思っています。むしろ50年を過ぎた校舎で何が問題かという、給排水設備や電気設備です。校舎の壁の中に配管・配線している設備が老朽化し、50年が経過した現在、水質が悪化したり、漏電したりといった問題が年間で数えきれないほど発生しています。これらの設備は壁の内部に通しているため、改修が極めて困難です。数年前に、この状況を解決するために校舎の建て替えを検討しましたが、建設費用の高騰により、数十億円という巨額の費用が必要であることが判明したため、現在は、建て替えは断念せざるを得ない状況です。

そこで、私はリノベーションをインフラ改修の代替策として検討しています。リノベーションでは、建物の骨組みなどの構造体は生かしつつ、外観をきれいに整備します。都内の学校での実例を参考に、例えば錆びた配管は、壁の外側に新しいものを新設することで対応できると考えています。ですが、リノベーションでも問題はあり、現在築50年の校舎に対しリノベーションを行ったとして、そこからさらに30年が経過すると築80年になります。その際、リノベーションで手を加えた壁や、校舎自体の躯体が、構造的に持ちこたえられるのかという懸念があります。もし、リノベーションを選んだ結果、やはり築50年、60年の時点で建て替えておけば良かったと後悔することになるのは避けたいと思っています。このため、建て替えもできず、リノベーションにも踏み切れず、どちらの方向にも進めないという状況に陥っています。

ですので、このアンケート結果で災害の心配はあまり私はいらないと思っていて、やっぱり教育がどんどん変わっています。コロナの時にICTやネット環境を整備しましたが、あれもWi-Fiなどは5年に1回ぐらい機械を変更しないとすぐに壊れてしまいます。やはり技術の進捗でもっと強いネット環境にしないと、通信速度が全然ダメになってしまうのが分かっています。これから改修・改築を検討したときに、それで費用が下がる要素がありませんので、そういったことを含めても私はある程度合理化というか、学校数など一つの施設にかかる費用の合理化は、避けられないと思っています。

また、学校教育の現場では、技術の進歩に伴うICT環境の維持・強化が大きな課題となっています。コロナ禍においてICTやインターネット環境を整備しましたが、Wi-Fiなどは、一般的に約5年で機器の更新が必要です。技術の進歩が速いため、更新を怠ると通信速度が追いつかず、機能不全に陥ってしまう可能性があります。今後、こうしたICT環境の改修・改築を検討する際、費用が下がる見込みはないと思っています。このような状況から、私は、学校などの施設にかかる費用をある程度合理化していくという方向性は避けられないと考えています。

ソフト面については、私立学校なので人事採用も自ら行わなければなりません。私の手元に令和7年度の埼玉県の教員採用の倍率のデータがあります。小学校は2倍を切っていて、1.7倍であり、中学校、高校は3.5倍程度になっており、教員志望の方が少なくなっているという印象です。私は、学校教育は本当に教員の熱意が大きく影響していると感じています。これからの子どもたちは多様化してきて、それこそ日本国籍でない子どもたちもおり、様々な対応が求められている状況の中、教員の成り手が減っていて、私の学校も教員の確保に苦労しています。このような状況で、今の日本の学校数で教員の数を確保できるのかというと、私は非常に疑問に思っています。白岡市は独自の教員採用は実施していないと思います。おそらく埼玉県で人事をされていると思いますが、埼玉県は非常に苦労をしていると思います。しっかりとした教育を行うためには、教員の数が足りていないということに対して、学校数や学級数の調整などが必要であると私は思っています。アンケートの中で「望ましい学級数はいくつですか」という設問があります。私は、小学校は詳細については分か

	<p>りませんが、中学校については、理想はやはり5学級ではないかと思っています。それは国語、数学、理科、社会、英語の教員が1学年でそろからです。先ほど学校教育は教員の熱意が大きく影響していると申しましたが、自分の学年を担当する国語や英語の先生の指導には、やはり熱意が感じられます。一方で、他の学年から兼任で来られた先生が担当する場合、指導法や生徒との関わりが馴染みにくいと感ずることが少なからずあります。ある程度、教科担当の教員を同じ学年で揃えることが理想で、最低限の基準としては、中学校の場合、国語、数学、英語の主要3教科だけでも、その学年を専任で担当する教員を配置することが必要であり、そうすると3学級以上の学級数があることが望ましいと考えます。今回のアンケート結果で教職員の方の回答がそのようになっているのも頷けるなと思いました。話が長くなりましたが、私の懸念は、ハード面とソフト面の両面で今の学校数や学校規模、予算規模から、教員数を確保していくのは難しいということです。私も日ごろ直面している課題になります。</p>
濱本会長	<p>ハード面とソフト面についてご意見をいただきました。これらは白岡市だけの問題ではないので難しい課題であると思います。また、白岡市に親しみを持ってくれる先生を増やす、そういう先生を増やすための土壌を作っていくことは、ぜひ頑張っていたきたいと思います。</p>
C委員	<p>私は、合理化や人材、経済の面からやむを得ないと判断せざるを得ない現実と、未来を見据えた将来ビジョンの内容をどう両立させ、バランスをとっていくのかよくわからないと思いました。</p> <p>今回のアンケートの中で、躯体の安心・安全しか見ていませんでしたが、教師の成り手の問題なども安心・安全にも関わってくると思いました。</p> <p>合理化の問題でどこまで合理化を進めるのがよいのでしょうか。例えば学校にそもそも行く必要があるのかというところまで踏み込むのでしょうか。極端な話、家庭でiPadを使って授業を受けるやり方も究極の合理化なのかもしれません。その一方で、やはり友達と遊ぶとか、そういうこともすごく重要だという内容を将来ビジョンの中に描けないだろうか色々悩んでいます。</p>

L委員	<p>ハード面の内容がすごく気になっています。問題になっていることは、各学校の建替えの費用が高額になることであって、どうすればよいか私なりに考えましたが、超短期、短期、中期、長期のように分けて考えていかないとうまく進んでいかないと思いました。</p> <p>例えば、短期的な話では、学校の修繕を進め、ある程度を維持していく。そして、中長期の時期で建替えをしていくというような形を考えていかなければならないと思います。私の個人的な考えになりますが、学校は、建替えサイクルがあると思うので、次に建設する場所を確保しておき、建て替えを迎えるまでは、例えば、公園にしておくなど、連続的に活用する形を考えていけば、用地確保の問題などに悩まなくてもいいのかなと思いました。</p> <p>今お話した内容を含めて今後の学校をどうしていくのか、そのためにこの審議会があると思っていますので、しっかりと議論していけたらと思います。</p>
M委員	<p>どのように学校の建替えを進めていくかについて情報提供になります。一番有名なのは、学校の空き敷地にプレハブ校舎など新校舎をそこに建てる方法です。最近、ある自治体の小学校で、新校舎が建つまでの間、一時的に就学先を隣接する小学校に変更するということが聞きました。</p> <p>このような方法は、比較的、市街地などは可能ではないかと思います。</p>
B委員	<p>予算についての質問です。新校舎を建てた場合、維持するために修繕などを実施すると思いますが、例えば、住宅では何年か経過したら、改修していくのが通常だと思います。公共施設の場合は、改修に必要な費用を積み立てしておき、改修が必要になった際、積み立てを崩して使用するということはできるのでしょうか。今の白岡市の状況を確認したいです。</p>
事務局	<p>当市に限らず、自治体の一番弱い部分というのが、修繕の積み立てであったり、建物に充てるお金のことでございまして、当市の場合は、建てることに全力を注いでいるような形になっています。そのため、建てた後のことをなかなか考えていけないというのが今までの状況でございまして、</p> <p>自治体には基金というものがございまして、公共施設整備基金があります。</p>

	<p>また、財政調整基金といたしまして、家庭の貯金のようなもの、何にでも使える貯金のようなものもございます。市ではこれらを活用しながら予算編成を行っているところですが、なかなか積み立てというところはできていない、これが実情でございます。</p>
<p>濱本会長</p>	<p>前回の審議会で学校1校あたり、年間で3億円程度の費用かかるとの話がありました。大雨とか災害が発生し、改修が必要になった場合は、その都度対応していくしかないというところがあると思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>1点補足いたします。大きな建物の改修等になりますと、改修費が高く、その年だけ一気にお金が増えてしまいます。建物というのは長期的にも使うものになりますので、そのためには、地方債といって借金をして計画的に返済していくということがあります。このような方法を活用しながら、市は資金を確保しているというところがございます。</p>
<p>M委員</p>	<p>事務局に1点質問です。前回の審議会で学校1校あたり3億円程度費用がかかるとのことでしたが、人件費除いて3億円ということでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>人件費を含めて3億円になります。</p>
<p>M委員</p>	<p>追加の質問です。人件費は県の負担分は含まれていますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>県の負担分は含まれています。</p>
<p>M委員</p>	<p>ありがとうございます。事務局から回答をいただき納得しました。私が経営している中学校が3学年15学級で篠津中より、3クラスくらいクラス数が多い中学校です。学校運営の費用は、人件費を含め、年間4億円弱くらいになります。、学校運営は、人件費がかなりかかってきます。そういう意味では施設面にかかる費用が増えてくると、学校運営がもっと難しくなるという実感を持っています。</p>

<p>濱本会長</p>	<p>ありがとうございます。皆様からハード面のことで多くのご意見をいただいています。ソフト面についても、「こんな子どもを白岡市で作りたい」というようなご意見も是非いただきたいと思います。いかがでしょうか。</p>
<p>A委員</p>	<p>子どもたちの基本となる部分は、人間性になってくると思います。その部分は日頃から先生方にご尽力いただいていると認識しています。課題として捉えているのは、人と人とのつながりだと思っており、近年は希薄になってきていると感じます。ネット社会が進んでいる中、実は大人社会においても人と人とのつながりが希薄になっていると思います。例えば、自治会に参加する人が減ったり、PTAの組織率にも関わっています。このような大人の行動から、子どもたちは、そこまで地域の人と関わらなくていいのかなという思いにつながっている可能性があると感じています。</p> <p>やはり地域を支える基盤づくりには、子どもを中心とするアプローチが最も効果的であると感じているので、子どもたちと地域の方々とどのようにつなげていくかということを考えながら地域活動しています。この取組がうまくいけば、おそらく今の子どもたちが、将来、親になった時もずっと続いていく流れになると思っています。子どもたちと地域の方々と関係性を強化していけると市としてうまく発展していくのかなと思いました。</p>
<p>D委員</p>	<p>白岡市は、すでに小学校では、地域と連携していろいろな学習活動を展開していると思います。現在のままでは十分とは言えないかもしれませんが、それ以上を考えると、どんなことをさらに加えていくのか考えることが難しいと感じました。</p> <p>また、私は将来のビジョンを策定するにあたり、どのような形で内容を整えていけばよいか不安に感じているのが率直な意見です。どういう論点で話をしていけばいいのか、私が考えている意見を発言してよいかどうか迷うところがあります。</p> <p>義務教育学校があると思いますが、ある市では10年間で20校ある小中学校を3校の義務教育学校にするとの計画があり、この計画が進行していると伺</p>

いました。白岡市の場合は、10年間で市内の学校をどうしていくか考えることは、まだよいのかなと個人的には思います。子どもの数が一気に減少するのではなく、少しずつ減っていくという状況だからです。ですが、そのような状況の中でも地区ごとにみていくと、短期的に考えなければならない課題もあると思います。前回の審議会でもお話しましたが、菁莪小中学校をどうするのかという内容です。地区ごとの状況を踏まえながら、20年後、30年後についてしっかりと計画を立てておく必要があると思います。

小学生の通学については、距離と時間、安全というものを考えた場合、小学校をベースで考えるのか、小中学校を含めて考えるのか、どのような構想を持つかで内容が変わってくると思います。この内容は、ハード面にも関連があるものと考えます。

さらには、どういうものをベースにしてこれからの学校を考えていくのか。その内容については、今回のアンケート結果にもありますように、基礎学力を育む、豊かな人間性を育む、協働した探求的な学びを促すといった項目の回答割合が高いということが出ています。この結果は、今までの教育でも求められてきた内容であると思いますし、参考になる意見だと思います。学習指導要領が変わりますが、内容がより具体化してきていると感じます。

小学校をベースにするのか、小中学校をベースにするのかで、学校の枠組みが大きく変わってくると思います。そのようなことを考えて今後話し合っていければと思います。

白岡市立学校の適正規模・適正配置では、今後の学校作りについて考えていかなければいけないと思っています。

9月5日に中央教育審議会が行われました。これは文部科学省の諮問機関ですが、次期の学習指導要領の改訂に向けた論点整理がされました。小学校では2030年から、中学校では2031年から全面実施の見込みです。また、2040年に向けた教育の主な方向性が示されています。つまり現在から15年先を見据えた教育の方向性が示されたと考えてよいと思います。このような内容を視野に入れたほうがよいと思いました。

あと、前回の審議会の際に、20年ないし30年先をイメージして将来ビ

F委員

ジョンを策定するとありましたが、5年後、10年後といった短期的な視点も計画に含めていただきたいという話もありました。その点ですと、菁莪中学校については、今から7年後の令和14年には、3クラスになる見込みとなっています。3クラスになると、7名の教員で10教科を見なければいけなくなります。非常勤講師などを配置することとなると思われますが、1人の教員が2つの教科の免許を持っているというのはいずれもあまりない例です。そうなるとうなってしまうか。また、例えば国語の教員が1人しかいない場合は、その1人の教員に委ねられるわけです。この状況はあまりよろしくなく、教員が2～3人いて、お互いに国語の授業をどうやっていくか意見交換をしたり、教材研究を実施するなどの取組をしていかなければ教師の力量は上がらないと思っています。このことから、菁莪中学校の対応について、20年、30年先に実施するというのは、私は現実的ではないと考えています。短期的な対応が必要であると思っています。

A委員

委員の方々のご意見を伺っていると、学校経営の中で、クラス数というのは非常に重要なポイントだと思いました。

白岡市として学校を維持するために何クラスぐらいがいいのではないかと、案、指針を出すと、おそらく学校の数は決まってくると思います。そこで問題になってくるのが子どもたちの通学方法になってくると思います。中学生は、以前から自転車通学の話が出ていますし、大山地区の方はバスで通学しています。南中は菁莪中から分離して開校となりましたが、開校前までは、南地区の中学生は自転車で菁莪中まで通学していました。その後、白岡市は自転車通学を実施していません。今後の通学方法は、自転車通学やスクールバスについて考えながら、子どもたちの通学の安全性はしっかり確保していき、1学年あたり何クラスが今後の白岡市にとってベストなのか、喧々諤々の議論をしていくと、おそらく学校がいくつ必要なのかわかってくると思います。その前に小学校の数、そして中学校の数を決めるのか、小中一貫校にしてしまうのか、または地域によって小中一貫校にしてしまうのか、その辺も議論すると方向性が見えてくると思います。

濱本会長	<p>ご意見にありました学校の適正規模については、基本的には、令和7年3月に白岡市教育委員会が出している「白岡市立学校の適正規模・適正配置に関する計画策定の基本方針」の7ページに、小学校の適正規模は18～24学級、中学校は12～18学級ということで基準が出ています。</p> <p>そのため、基本方針の内容を踏まえ、次回の審議会では適正な学級数について、ご意見をいただければよいのかなと思います。</p>
C委員	<p>学級数を決めていけば、その後、学校の適正な配置が決まっていくというのはその通りなのかなと思いました。また、学級数が教員数にも影響が出てくることについて理解できました。</p> <p>適正な学級数を決めていき、学校再編していくという流れができあがったと仮定すると、通学手段が大変になるといった問題が出てくるのが想定されます。アンケート結果をみると、児童生徒の通学について心配との意見が見受けられます。このことから、通学手段については、スクールバスや自転車通学を検討事項として考えたほうがよいのかなと思いました。</p>
濱本会長	<p>子どもたちの通学については、第一に安全面をしっかりと考えていかなければならないと思います。</p> <p>それでは最後に、安原副会長から本日のまとめという形でお願いします。</p>
安原副会長	<p>持続可能な白岡市を考えていくと、短期的な課題もありますし、中長期的な課題もあると思います。インフラの問題が発生した際は、いつまでに、どのような対応とっていくかなどの課題があります。</p> <p>学校規模やハード面の話をしたときに、なぜハード面が大切かというと、実はソフト面への影響が大きいからです。かつて都市部では大規模校で問題が発生しました。それは、小学校ですが、2日に1回救急車が来ていたとのデータがあり、子ども1人ひとりの面倒を十分にみきれないという状況になっていたということです。現在は、この状況は解消されています。</p> <p>また、全国の地方では、1クラスあたりの児童数が一桁の単学級の小規模校が増え、深刻な問題となっています。限られた人数の中で、子どもたちをどの</p>

ように豊かに育てていくかが、現在、全国の地方で喫緊の課題となっています。これもまた、学校の小規模化といったハード面が子どもたちの社会性や人間関係の育成といったソフト面にマイナスな影響を与えていることとなります。

このような課題を解決していくため、短期的、中期的、長期的といった枠組みで考えていく必要があると思っています。

あと、審議会ですから皆さん自由に発言してよいのではないかと思います。私の個人的な意見として、白岡市がすべての小中学校を義務教育学校に変えるという意見に対して、賛成・反対という論点から考えてもいいのではないのでしょうか。義務教育学校のメリット・デメリットについて議論をしてみるのもよいと思いました。ですので、次回以降の審議会では、思い切って自分の夢を語っていただき、それに対して自由に議論していくことで、これからの学校づくりのヒントが見えてくるのではないかと思います。

また、学校を南北で分ける、東西で分けるということも選択肢の1つになると思いますし、いずれにしても選択と集中は考えていかなければならないと思います。何を選択してどこに集中するか、当然それに対して調整すべき点が出てくると思いますが、もっと様々な意見があれば事務局は助かると思います。

プールの話については、施設設備的には学校外の施設を使って、スイミングスクール等の委託で教育をしようとしている学校が増えてきています。

このように現在の実態に合わせて対応を変化させていくことが学校教育において進んでいます。白岡市も時代の変化に対応した学校教育を進めていけるよう、今後の議論を実施していけたらと思います。

濱本会長

皆様、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。今日いただいた意見につきましては、今後の審議会の議論の中で生かしていきたいと思えます。

事務局についても、今回のご意見を整理いただき、今後の審議会の有意義な議論につなげていただくようご協力をお願いします。

以上をもちまして、本日の議題は、すべて終了いたしました。

委員の皆様方のご協力に感謝申し上げます。

それでは、進行を事務局にお返しします。

事務局	<p>4 その他</p> <p>～事務局から、「次回審議会の日時について」、「視察研修について」、「報酬及び費用弁償の支払いについて」を説明～</p>
事務局	<p>ただ今の説明について、ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。</p>
L委員	<p>視察研修の視察先として、現時点でどのようにお考えなのか教えていただければと思います。</p>
事務局	<p>視察先につきましては、将来ビジョンを策定していく中で、今後、論点を絞った議論を行っていきますが、その論点の内容に参考となるものを見ていただければと考えています。例えば、これからの学習環境や小中一貫教育、学校と地域との連携、ICT教育などが論点の内容として考えられ、これらの内容に力を入れて取り組んでいる学校を委員の皆様に見ていただきたいと考えています。</p> <p>本日の委員の皆様の議論の内容を参考としまして、視察先は調整したいと思います。</p>
事務局	<p>委員の皆様から、全体を通して何かございますでしょうか。</p>
委員一同	<p>意見、質問等なし</p>
事務局	<p>5 閉会</p> <p>本日は、長時間にわたり、熱心にご審議いただき、ありがとうございました。これをもちまして、第2回白岡市立学校適正規模・適正配置審議会を閉会させていただきます。</p> <p>今後とも、よろしくお願いいたします。</p>